

## 4 ウロビリノーゲン

正常値▶弱陽性(±)

### この検査で何がわかるか?

おもに肝臓の働きを調べる検査です。ウロビリノーゲンの大部分は便とともに排出され、残りは腸の壁から吸収されて再び肝臓にいき、そこから血管、腎臓を遊って尿といっしょに排出されます。ですから、肝臓自体に障害があって腸から再吸収されたウロビリノーゲンを処理できなくなるときに尿の中にウロビリノーゲンが多く出てくるのです。


### 疑われる病気や異常

●増えた場合

- 肝臓の障害 ●赤血球が壊れる病気
- 黄疸 ●溶血性貧血など ●心臓の病気
- がん ●便秘 ●薬剤:サルファ剤、アドナなどの影響による

●減った場合

- 胆石 ●総胆管閉塞
- 抗生物質の長期服用



## 5 便潜血反応

正常値▶陰性(-)

### この検査で何がわかるか?

消化管からの出血の有無を調べる検査です。消化管のどこかに出血があれば、便潜血反応は陽性(+)になります。出血量が多い場合は肉眼でも確かめることができますが、この検査では肉眼ではわからない微量の出血(潜血)を検出できます。とくに最近増えている大腸がんの早期発見に威力を発揮します。

### 疑われる病気や異常

●陽性(+)~(卍)の場合

- 大腸がん
- 胃や十二指腸の潰瘍、がん




## 血液検査

## 1 GOT/GPT

正常値(基準値)▶8~40単位/5~35単位

### この検査で何がわかるか?

GOTとGPTは肝臓検査の代表選手です。またGOTは心臓の病気、とくに心筋梗塞の発見に大きな威力を発揮します。

### 疑われる病気や異常

●GOTが増えた場合

- 心筋梗塞
- 進行性筋ジストロフィー

●GOTとGPTが増えた場合

- 急性肝炎(GOT、GPTとも非常に増える)
- 慢性肝炎・脂肪肝(GPTがGOTより多いのが特徴)
- 肝硬変・肝臓がん(GOTがGPTより多いのが特徴)

## 2 γ-GTP

正常値(基準値)▶40 IU以下男 50 IU女 39 IU

### この検査で何がわかるか?

γ-GTPは肝臓や胆道に障害があると血液中の値が上昇してくるので肝臓病発見の手がかりとなります。またアルコール常飲者では高値を示すという特徴があるため、アルコール性の肝臓障害を見つける指標となります。

## 3 HDL コレステロール

正常値(基準値)▶男40~80mg/dL 女45~85mg/dL

### この検査で何がわかるか?

HDLコレステロールは、いわゆる動脈硬化を予防する善玉コレステロールです。適度のアルコール摂取(1合程度)と有酸素運動により増加し、逆に喫煙、肥満により減少します。女性はホルモンの関係で男性よりも高めの傾向です。

### 疑われる病気や異常

●増えた場合

- 急性肝炎 ●アルコール性肝障害
- 脂肪肝 ●閉塞性黄疸

### 疑われる病気や異常

●低値の場合

- 動脈硬化の危険性がある(心筋梗塞、脳梗塞等)
- 肝硬変 ●糖尿病
- 腎疾患 ●甲状腺機能亢進症

## 4 総コレステロール

正常値(基準値)▶130~230mg/dL

### この検査で何がわかるか?

成人病の元凶である動脈硬化の進み具合を調べる重要な検査です。また肝臓病とも密接なかわりがあります。コレステロールが多くなりすぎると高血圧や心筋梗塞の原因となります。しかしコレステロールは細胞をつくる成分やホルモン、ビタミンなどの原料として大切な脂肪の一種ですので逆に少なすぎると肝臓や脳、血管などに栄養がいかなくなり、脳卒中が起こりやすくなります。


### 疑われる病気や異常

●値が高い場合

- 家族性高コレステロール血症
- 糖尿病、動脈硬化症
- 甲状腺機能低下症

●値が低い場合

- 甲状腺機能亢進症
- 貧血、がん、栄養障害
- 肝硬変



## 5 中性脂肪

正常値(基準値)▶40~150mg/dL 食後の検査の場合、正常値が異なります

### この検査で何がわかるか?

中性脂肪はからだにとって重要なエネルギー源ですが、血中で多くなると肥満(脂肪肝)の原因になり、動脈硬化を進めるといわれています。過食及びアルコールの過飲を注意することで比較的控制が可能です。

### 疑われる病気や異常

●高い場合

- 高脂血症 ●糖尿病 ●肥満症
- 動脈硬化症 ●脂肪肝

●低い場合

- 甲状腺機能亢進症



## 6 赤血球数

正常値(基準値)▶男110万~530万/μL 女380万~480万/μL

### この検査で何がわかるか?

血液の中に含まれている赤血球の数を調べる検査で、ヘマトクリット、血色素(ヘモグロビン)とともに貧血を見つける手がかりとなります。赤血球が少なくなると細胞が酸欠状態になります。貧血が進むとボーッとしたり、けがなどで大量に出血すると悪苦しくなるのはこのせいです。

### 疑われる病気や異常

●減りすぎている場合

- 貧血(貧血の詳細い説明は、ヘマトクリットの項を参照)

●増えすぎている場合

- 多血症: 血が濃になって、血管がつまりやすくなる



## 7 ヘマトクリット

正常値(基準値)▶男45±5% 女40±5%

### この検査で何がわかるか?

ヘマトクリットとは血液に含まれる血球の容積の割合をいいます。血球のほとんどは赤血球で占められているので、ヘマトクリット値が減れば貧血が疑われます。




### 疑われる病気や異常

●減りすぎている場合

- 貧血(貧血の詳細い説明はヘマトクリットの項を参照)

●増えすぎている場合

- 脱水症状: 全身の衰弱がひどい、飲食物を口からとれない、自射病、熱射病など
- 真性多血症: 赤血球が徐々に増え、白血球や血小板も増えてくる。原因不明



## 8 血色素(ヘモグロビン)

正常値(基準値)▶男14~18g/dL 女12~16g/dL

### この検査で何がわかるか?

赤血球数、ヘマトクリットとともに貧血の検査です。ヘモグロビンは赤血球の中に含まれているたん白の一種で、血の赤さのもとです。また血色素には鉄が含まれています。無理なダイエットやかたよった食生活からくる“鉄不足”が貧血を招くのはこのせいです。

### 疑われる病気や異常

●減りすぎている場合

- 鉄欠乏性貧血: 鉄分の不足により、若い女性に多い
- 病状やケガによる出血が原因の貧血: 痔、胃潰瘍、子宮癌など
- 悪性貧血: ビタミンB<sub>12</sub>の不足
- 再生不良性貧血: 骨髄の造血能力が落ちる
- 溶血性貧血: 赤血球の寿命が短くなって、骨髄での製造が間に合わない

(28頁へつづく)